

自衛隊体育学校

オリンピックの成果を部隊精強化へ

体育学校躍進続く

新世界王者誕生



濱田2曹世界選手権優勝

サンボ世界選手権
11月22日千葉県成田市中台運動公園体育館において2014年世界サンボ選手権大会が開催され、自衛隊体育学校柔道班所属の濱田尚里2等陸曹がスポートサンボ女子80kg級に出場し、優勝の快挙を達成、体育学校にとおては2年ぶりの世界王者誕生となった。サンボはオリンピック種目でもないし、まして濱田が行う柔道とは全く別の種目だが、サンボだけでなくレスリング等様々な格闘技の強豪が参加し実力世界一を決める大会において、柔道の技術だけで世界王者になったことは大きな自信となったであろう。さらに、この柔道の勝利は日本の武道にとっても大きな勝利だといえよう。濱田は今回の世界王者というタイトルを引っさげて、柔道界へ凱旋する。その舞台こそ、柔道グラウンドスラム・東京だ。



荒井2曹

全日本50km競歩高島大会

10月26日(日)山形県高島町で開催された第53回全日本50km競歩高島大会兼第15回世界陸上競技選手権大会(2015/北京)男子50km競歩代表選手選考競技会において自衛隊体育学校所属荒井広宙2等陸曹が日本記録(山崎勇喜3等陸尉の記録)まで22秒に迫る3時間40分34秒で優勝、世界陸上代表に内定した。世界陸上で入賞(8位以内)するとリオ・オリンピックが内定する。自衛隊体育学校にとってはアジア大会で優勝した谷井孝行2等空曹が既に内定しているの、2人目の世界陸上内定者となった。自衛隊体育学校は間違いなく日本競歩界そして日本陸上競技界の牽引車と言っべき地位にある。その責任を全うすべく、来年の世界陸上では入賞してオリンピック出場を決めてもらいたい。



川内2尉



鈴木2尉



成松3尉

ボクシング全日本選手権
11月19〜23日の間、和歌山県田辺スポーツパーク体育館で開催された第84回全日本ボクシング選手権大会に自衛隊体育学校から6人の選手が出場し、ライト級の成松大介3等陸尉がこの階級4連覇(大会5連覇)、ライトウエルター級の川内将嗣2等陸尉3年ぶり7度目の優勝、ウエルター級の鈴木康弘2等陸尉が2連覇合計3度目の優勝。準優勝にはウエルター級決勝で鈴木と熱戦を繰り広げた佐藤龍士3等海曹と、ミドル級決勝で惜しくも敗れた濱崎良太2等陸曹の2人。3位にフライ級に出場した門前晴信陸士長。また、川内が大会MVPに当たる最優秀選手賞(山根明会長杯)を、鈴木が準MVPの優秀選手賞を受賞した。

近代五種全日本選手権
11月14〜16日の間、朝霞駐屯地自衛隊体育学校及びJRA馬事公苑において平成26年度第54回近代五種全日本選手権大会が開催された。男子は自衛隊体育学校所属の岩元勝平3等陸曹が総得点1420点で優勝、3連覇の快挙を達成。準優勝は総合得点1413点の山口智也3等陸曹、3位は総合得点1407点の野口隼人3等陸曹。女子は、島津玲奈3等陸曹が総合得点1180点で優勝、3位が総合得点1144点の山中詩乃3等陸曹という結果となり、上位者は五輪予選のアジア選出権が濃厚となった。

アーチェリー全日本&NT選考
10月25〜26日の間、静岡県掛川市ヤマハリゾート「つま恋」で開催された第56回全日本アーチェリー選手権大会において自衛隊体育学校所属澤出愛美陸士長が女子リカーブ部門で優勝した。また、澤出は引き続き11月14〜16日の間行われた第48回世界選手権大会第一次選考会兼2015年ナショナルチーム選考会にも出場し、毎日の2ラウンドづつ3日間の長く厳しい状況の中を戦い抜き、最終的に6位となりナショナルチーム入りを果たした。ナショナルチームは6人だが、来年5月に行われる世界選手権代表最終選考会で3人に絞られる。



成松3尉



澤出土長